

代替医療の現状と将来

京都府立医科大学微生物学教室 今西二郎

代替医療とは、国によって多少認識の違いはあるが、一般的に、大学の医学部で教育されている主流の現代西洋医学 (mainstream medicine) 以外の医学と定義されている。つまり、これには漢方医学、ハーブ療法、民間療法、マッサージ、鍼、灸、ホメオパシー、カイロプラクティックなど、さまざまなものが含まれる。

もともとイギリスで、補完医療・相補医療 (complementary medicine) と呼ばれていたものを、アメリカで代替医療 (alternative medicine) と改名したものであり、unconventional medicine (非通常医学) と呼ばれることもある。これは現代の西洋医学を全く否定し、それにとって代わろうとするものではなく、近代西洋医学に欠けている部分を補足し、医療のあり方を改善していくという発想を背景としている。現在正統とされている西洋医学は、病態解明のために分析的な手法を用いて、原因を明かにし、それに対する治療法を開発し、それなりに成功を収めてきた。しかし、すべての疾患がこの方法で解決されるものではない。また、西洋医学ではこのような方法を用いているためにどうしても病人より病気に焦点を当て勝ちになる。一方、代替医療は患者自身の持つ自然治癒力、自己回復力を目覚めさせ、精神と身体のバランスを整え、免疫力を強化することを目的としているものなのである。したがって、代替医療は西洋医学でのさまざまな欠陥を補う医療として近年注目されてきているのである。

そこでまず、欧米諸国およびわが国での、代替医療の取り組みについて述べてみたい。欧米諸国では、多くの人々が代替医療を受診している。とくに、アメリカでは、1991年の時点で約3分の1が、代替医療を受けていると報告され、しかも年々これらの数は増えてきている。また、代替医療に費やされている総額が西洋医学の治療を受けたときの自己負担分の総額を上回っているとの報告もあり、医療経済学的にも大変興味のある課題となってきた。そういうこともありアメリカでは、本格的に代替医療についての調査・研究を行うため NIH に代替医療研究室 (Office of Alternative Medicine) が設置されている。

カナダでは、1994年から1995年の調査で、15歳以上の人々のうち15% (約330万人) が、何らかの形で代替医療を利用しているということが明らかになった。慢性的疾患から回復した人々の9%は代替医療の治療を受けており、これは3種類あるいはそれ以上の種類の慢性的症状を持つ人々の26%に相当する。特に女性、45~64歳の人々、そして高収入のある人々に多く利用されていることがわかった。

ヨーロッパでも事情は似ており、イギリスでは10人に1人が代替医療を受けているといわれている。また、GPの68%が何らかの形で代替医療に関与しており、16%は実践しているとの報告がある。また、26%のGPは代替医療施療者に紹介し、55%は代替医療の受療を薦めている。

フランスでは、全体の3分の1以上の人々が代替医療を利用しているといわれている。特によく行われている治療法は、ホメオパシー、鍼、植物療法、温泉療法、整骨療法、カイロプラクティックである。

フランスの代替医療の特徴として、温泉療法が盛んなことがあげられる。これもほとんど医

師が治療を行っており、一部保険の給付対象になっている治療法もある。代替医療への関心が高まっているのは明らかなのであるが、正統医学に携わる医師は、まだその効果について懐疑的である。

一方、わが国内では少なくとも人口の約 3 分の 2 以上が代替医療の利用をしていると推定される。これは、数千年前に中国から伝えられた漢方医学が日本で非常に広く行われていることと関係があるだろう。

日本で行われている代表的な代替医療としては、漢方医学、鍼、灸、指圧がある。実際漢方医学はわが国ではきわめて重要で、600 種類以上の漢方療法に保険が適用されているし、薬の売り上げの 2.9% を占めている。現在、医師の約 70% が治療に漢方を取り入れており、その数は年々増加する傾向にある。しかし一方、入院患者に対して漢方医療を行なっている医師は、まだほとんどいないことからわかるように、まだ漢方医療に対して懐疑的な姿勢の医師が多いのも実情である。

しかも、日本では、漢方医学、鍼、灸などの東洋医学を一つの独立した分野として認め、代替医療の中には東洋医学は含まれないとする医師も（われわれのアンケート調査では約 30%）いる。この点で漢方に対する医師の姿勢は欧米諸国とおおよそ異なると考えられる。また、それぞれの代替医療の信頼度についても、漢方については約 95% が、鍼・良導絡で約 88%、灸で約 78% が有効であるとみなしているのに対し、他の療法では、温泉療法を除いてそれほどの信頼度を置いてない点でも欧米諸国とは異なる。

多くの医師が代替医療に積極的でない理由として、代替医療の効果についての信頼に足る情報が不足していることがあげられる。すなわち、代替医療が科学的証拠に基づいているかが重要である。そこで、われわれは evidence-based alternative medicine の現況について調査した。その結果、メタ分析にかけることのできる臨床試験はまだまだごくわずかしか発表されていないが、確実に増加してきている。

本講演ではさらにアンケート調査や EBM の調査結果の詳細について報告し、今後の代替医療のあり方について提言したい。